

兵庫県

(豊岡地区)

環境保全指標生物の可視化によるコウノトリを 育む農法の面積拡大

【1. 概要】

- ・水稻栽培で、水田生態系を活かし、雑草、害虫の効果的な抑制を実践
- ・豊岡地区取組面積：約432ha（同地区栽培面積の15%、平成22年度比142%）
- ・研修資料を作成し、各JA単位での講習会を開催（平成27年度は延べ12回）

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- ・兵庫県では、1950年代からコウノトリの野生復帰を進めてきた
- ・コウノトリの餌となる水田生物を確保するための「コウノトリ育む農法」の一環として、平成15年から技術確立に着手し、平成19年からは、「指標生物マニュアル」の作成に取り組んできた

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・水田の冠水管理（冬みずたんぼ、早期冠水、深水管理）による水田生物の確保
- ・水田生物にも優しい環境整備。（殺虫・殺菌剤の使用禁止、有機物の投入）
- ・6月26日を「生き物調査の日」に設定し、水田生物の一斉調査を実施（図1）
- ・「生き物調査」等の取組を生産者と関係機関が一体となって実施・共有し、生き物と共生する意義を自覚させるとともに、対外的にも環境の豊かさをアピール

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・シンボル生物（コウノトリ）の確保。（平成17年：3羽→平成27年：78羽（野外数））
- ・指標生物の特定と調査方法提示による、農法別の生物多様性の評価方法を開発
- ・地域の生き物の多様性クラスが高まり、虫害による作物被害が低下（図2）
- ・取組面積は年々増加しており、地域ブランドとして定着



図1. 生き物調査の様子

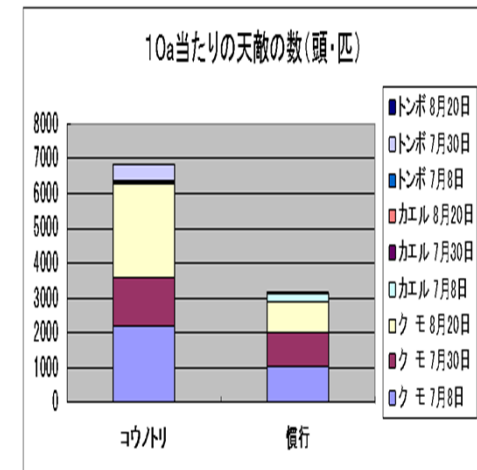


図2. 10a当たり天敵数の比較

【問い合わせ先】
農政環境部農業改良課環境創造型
農業推進班
電話：078-362-9206